

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	現代日本語の補助動詞の分析
Author(s)	ユリアニ ヘルマニンシ,
Citation	日本語・日本文化研修プログラム研修レポート集, 19期 : 113 - 131
Issue Date	2005-03-31
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00038850
Right	
Relation	



現代日本語の補助動詞の分析

ユリアニ・ヘルマニンシ

1. はじめに

外国人が日本語を学習するには、いろいろなことを学ぶ必要がある。特に文法を学ぶことは重要である。日本語を学ぶに関して、日本語の文法はどうしても学ばなければならないことである。文法を理解するためには、まず、品詞が分からなければならない。日本語の品詞は金田一（1989）によると、「文法上の性質や働きから単語を分類した呼び名である。日本語ではふつう、名詞・代名詞・動詞・形容詞・形容動詞・副詞・連体詞・接続詞・感動詞・助動詞・助詞に分ける（part of speech）。」とされる。

それから、補助動詞と言う用語もある。私はその日本語の補助動詞に関して、関心を持っている。日本語の補助動詞はインドネシア語に翻訳すると、対応する品詞がなく、なかなかはっきり意味が分からない場合もある。補助動詞は本来の意味を失って、動詞＋「て形」の後ろに付いている。補助動詞は本来の動詞に意味を付加する。

三上章（1963）によると、動詞の使い方に「補助動詞」と「本動詞」があるとされる。本動詞は本来の意味を表す。補助動詞は“て形“の後ろに付けて用いられ、本来の意味を補助する機能を持つものである。

吉川武時（1989）によると、「いる」「ある」「おく」「しまう」「くる」「いく」「みる」は、単独で述語として用いられる他に補助動詞としての用法もあるとしている。

2. 研究の範囲

日本語の補助動詞は範囲が広くて、私の知識はまだまだ浅いので、本研究においては、『中級から学ぶ日本語』にはどんな補助動詞が用いられ、その構造、意味はどうなっているかということに限定して分析したい。本研究の対象は『中級から学ぶ日本語』における、補助動詞を用いた文である。この教科書を選んだ理由は他の教科書に比べて補助動詞が多く、練習のための例文もたくさんあるからである。

3. 研究の目的

『中級から学ぶ日本語』における現代日本語の補助動詞を分析し、その構造、意味、使用法を知る。

4. 研究の成果

1. 現代日本語の補助動詞の分析、構造、意味、使用に付いて知識を高める。
2. 日本語を学ぶ大学生にとって、特に外国人留学生に参考になる。

5. 研究の方法

研究方法は『中級から学ぶ日本語』の中の補助動詞のデータを収集し、分類整理して、分析することである。とくに本動詞との意味機能の比較をしていく。

基礎的な理論

(1) 動詞の分類

日本語では、単語は大きく自立語と付属語の二つに分けられている。

1. 自立語、自立語はそれだけで独立して意味を持っている単語である。

a. 活用のあるもの。文において述語の働きを持つ。	b. 活用のないもの。
① 動詞：立つ、見る、など。	④ 名詞：机、靴、など。(名詞は文において主語になる)
② 形容詞：美しい、優しい、など。	⑤ 連体詞：この、その、など。
③ 形容動詞：きれいだ、ゆめいだ、など。	⑥ 副詞：ちょっと、ゆっくり、など。
	⑦ 接続詞：そして、だから、など。
	⑧ 感動詞：さあ...、ああ...、など。

2. 付属語、それだけでは意味を持たない単語。従って、使用の際には自立語と共に用いられる。これに当たるものは、二つの品詞である。

b. 活用のあるもの。	c. 活用のないもの。
⑨助動詞：ます、れる、られる、など。	⑩助詞：を、は、が、など。

「補助動詞」は動詞に入る。補助動詞を詳しく知るために下の説明から、どうして「補助動詞」と言えるのか、分かりやすく説明する。動詞の分類、吉川武時（1989）は分類を次のように説明している。

自動詞	対象を表す「～を」を取らない動詞	いる、ある、おきる、ねる、歩く、見える、開く、付く
他動詞	対象を表す「～を」を取る動詞	読む、食べる、なぐる、持つ、見る、開ける、付ける
継続動詞	「本を読んでいる」のように「～ている」の形で進行の状態を表す動詞	読む、書く、話す、歩く、笑う、歌う、(雨)が降る
瞬間動詞	「窓が開いている」のように「～ている」の形で結果の状態を表す動詞	開く、割れる、こわれる、折れる、並ぶ、知る、持つ
意志動詞	人間の意志的な動作を表す動詞	勉強する、読む、歩く、計画する、下りる
無意志動詞	人間の意志によってコントロールできないことを表す動詞	びっくりする、忘れる、(試験に)受ける、落ちる

(2) 補助動詞の定義

杉本つとむ、岩淵匡（1990）によると、補助動詞は「不完全自動詞アル（有・在）・イル・ゴザイマス・スル・ナサルなど。文語では、候・侍り・奉るなど、それらに準ずる動詞。〈ぼくは大学生である〉とか、〈今は十時でございます〉、〈お読みにくださる〉のアル・ゴザイマス・クダサルなどは大学生・十時の補語をとることで、はじめて充足完結した意味を表す。」とされている。日本語教育学事典（1982）には、「ある動詞が他の動詞の後ろに付けて用いられ、これにある一定の文法的な意味を付け加える働きをする場合、それを補助動詞という」と定義されている。

これらの定義をまとめると、次のようになる。「補助動詞というのは、ある動詞が他の動詞の後ろについて用いられ、本来の意味を失って、文法的に前の動詞に意味を付け加え、新しい意味を形成する機能を持つ動詞である。つまり、二つの動詞から作られた、「て形の主動詞」と「補助動詞」の複合形を『補助動詞』というのである。」

(3) 動詞＋「て形」

よく知られているように、補助動詞が成立するには、動詞が「て形」に変わらなければならない。従って、日本語における「て形」は、どう作られるか、意味が変化するかのようにということを説明する。動詞の「て形」の作り方は、富田隆行（1991）によると、動詞の「て形」の作り方は次のようである。この場合、動詞の活用形式による分類によって説明する、すなわち：

<p>1. 五段動詞／五段活用動詞（う、つ、る、ぶ、ぬ、む、く、ぐ、す）の語尾の動詞である。</p> <p>1 「う、つ、る」の語尾が「～って」なるもの。例：買う_買って、振る_振って、など</p> <p>2 「ぶ、ぬ、む」の語尾の動詞は「～んで」になるもの。例：遊ぶ_遊んで、死ぬ_死んで、読む_読んで、など</p> <p>3 「く」の語尾が「～いて」になるもの。例：書く_書いて、など、例外：行く_行って。</p> <p>4 「ぐ」の語尾が「いで」になるもの。例：脱ぐ_脱いで、など</p> <p>5 「す」の語尾が「～して」になるもの。例：貸す_貸して、など</p>	<p>2. 一段動詞／一段活用動詞。二つの動詞に成り立つ。上一段動詞の「いる」と下一段活用動詞の「える」の語尾の動詞である。「て形」の作り方は「いる」と「える」の語尾が「～て」になるもの。例：起きる_起きて、食べる_食べて、など</p>	<p>3. 不規則動詞／二つの動詞に成り立つ。</p> <p>サ行変格活用動詞。例：する_して</p> <p>カ行変格活用動詞。例：来る_来て。</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------

(4) 動詞「て形」＋補助動詞

次の動詞「て形」＋補助動詞（V1「て形」+V2）の二つの種類を述べたい。

1. (V1「て形」+V2)

- ① ちょっと仕事を休んで、食べませんか。 ② 朝お起きて、浴びます。
- ③ 彼はここへタクシーに乗って、来ました。

この例文では前の動詞（V1）、後ろの動詞（V2）とも主動詞である。この形では、後ろの動詞（V2）は補助動詞ではなく、二つの動詞が単に「て形」で結ばれたものと見なければならなくて、両動詞とも主動詞で、各々単独で用いられる時と同じ意味、同じ文法的性質を持つ、文法的に両動詞は同等の関係にある。この場合、V1 が V2 の表す意味内容を補助しても、補助動詞とはいえない。

2. (V1「て形」+V2))

- ① 彼女は日本語を勉強しています。 ② 彼の言うことはだんだん分かってきた。
③ 私がそこに着かないうちに、みんな行ってしまいました。

この例文では、V2 は V1 の「て形」の後ろに付いて用いられ、本来の意味を失い、V1 の意味を補助し、新しい意味を形式する。この場合 V2 は補助動詞として機能している。

(5) 補助動詞の種類、構造

次に補助動詞の種類について述べる。まず、いくつかの文例を引いて説明する。小川義男 (1992) では、補助動詞は 11 種に分類されている。

1. ～ている (継続状態) 例：今テレビをみている。
2. ～てある (動作結果) 例：窓が開けてあります。
3. ～ておく (準備) 例：窓を開けておく。
4. ～てしまう (完了) 例：宿題を全部やってしまった。
5. ～ていく (順序) 例：次々ゲームが行われていく。
6. ～てくる (戻る) 例：次第に明るくなってきた。
7. ～てみる (試す) 例：そのことを先生に相談してみよう。
8. ～てみせる (望む) 例：今度こそ勝ってみせる。
9. ～てあげる (好意をあげる) 例：分からなければ教えてあげよう
10. ～てくれる (好意・動作をもらう) 例：お父さんは僕にかばんを買ってくれた。
11. ～てもらおう (好意・動作をもらう) 例：僕はお父さんにかばんを買ってもらった。

稔子田中 (1990) では、補助動詞を 7 種に分類している。すなわち、

1. ～ている (動作の行われた結果の状態を表す) 例：学校を卒業している。
2. ～てある (動作結果を表す) 例：字が書いてある。
3. ～てみる (意志的に試す動作を表す) 例：電話をかけてみる。
4. ～ておく (準備の動作を表す) 例：手紙を書いておく。
5. ～てしまう (残念なことを表す) 例：ラジオが壊れてしまった。
6. ～ていく (状態だんだんと将来何か変化する) 例：教育制度が変わっていく。
7. ～てくる (状態がだんだんと現時点に何か変化する) 例：子供が育ってきた。

以上の補助動詞の分類についてまとめてみると、補助動詞となり得る動詞は、

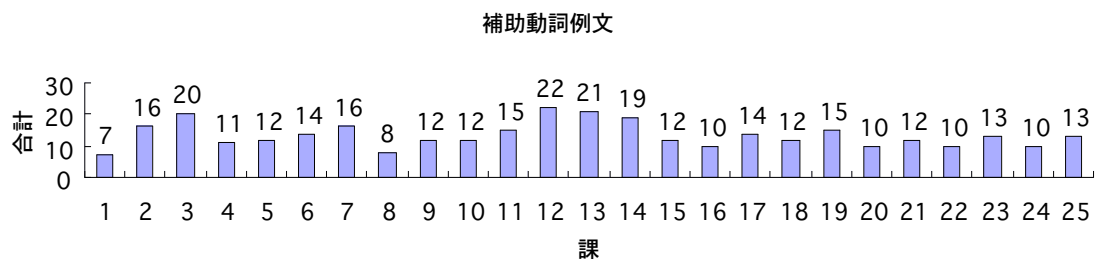
1. ～ている 2. ～である 3. ～ておく 4. ～てしまう 5. ～ていく
6. ～てくる 7. ～てみる 8. ～てみせる 9. ～てやる 10. ～あげる
11. ～さしあげる 12. ～てくれ 13. ～くれる 14. ～くださる
15. ～てもらふ 16. ～いただく 17. ～てください 18. ～てちょうだい
19. ～てたまらない

が取り立てられている。また、それらの動詞を補助動詞として用いる場合は平仮名で書く。

研究のデータの分析

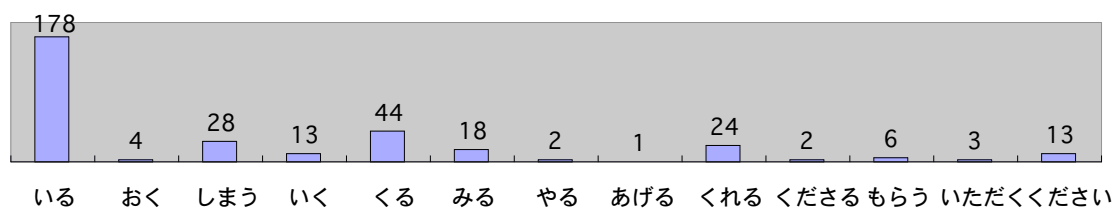
A. 研究の方法と対象

この研究では、『中級から学ぶ日本語』における補助動詞の例文を引用する。その理由は、『中級から学ぶ日本語』には、補助動詞が多く含まれている。日本語教科書として、補助動詞の例文が多い。25 課の中に 336 補助動詞の例文がある。



B. データの収集と手順

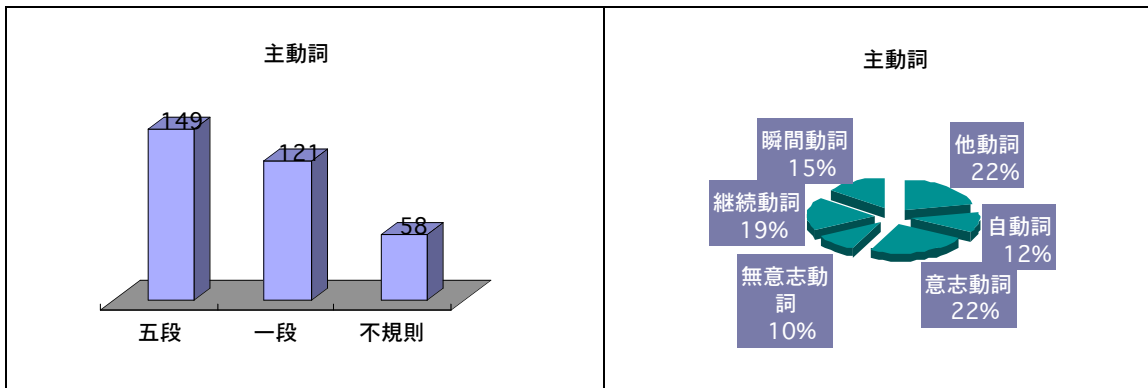
1. 『中級から学ぶ日本語』の 25 課からすべての補助動詞を抜き出すと、その中に 13 の補助動詞の種類があった。
2. それらの補助動詞の文型を収集して分析すると、336 の補助動詞の使用が 13 種類に分かれた。



「て形」の形の主動詞を補助動詞と共に抜き出すと 328 主動詞が集められた。(328 主動詞は 169 の分から集められた)。その主動詞はすべて「て形」に変わっている。

五段動詞=149 (65 種類)	一段動詞=121 (63 種類)	不規則動詞=58 (41 種類)
よく出る主動詞は：なる=18 思う=11 言う=7 やる=7 持つ=5 聞く=5 買う=5 乗る=5	よく出る主動詞は：考える=12 続ける=10 見る=8	よく出る主動詞は：来る=10

他の主動詞は各課に一回ぐらい出る。



2. そして『中級から学ぶ日本語』にあるそれぞれの補助動詞の文型から「ている」だけを抜き出した。

C. 「中級から学ぶ日本語」における補助動詞の構造を分析する

1. ～ている

178 の「ている」の例文がある。補助動詞「いる」の意味は、

1. 継続状態を表す言い方 (83)

高い辞書を持っていても、全然使わずに本棚に並べておくだけの人に、「猫に小判だね」と言うのです。(1 課)

招待状をもらってすぐに、陽一の勤めている広告会社に「おめでとう。良かったな」と言って、電話をかけた。(2 課)

2. 動作の進行を表す言い方 (18)

ごはんのときは、いつもみんなでお父さんのことを話しています。(3 課)

まだ会社で働いているかなとか、もううちに帰ってこの番組見てるかなとか。(3

課)

3. 受身の表現 (16)

私は日本が大好きですから、こんな母親や、こんな母親に育てられている子供たちをみると、ちょっと心配になってくるのです。(4課)

ところで、日本人がよく使う名刺に書かれている会社名や肩書きも外見一つと考えられる。(8課)

4. 過去における動作・状態の継続を表す言い方 (50)

今晚もカレーを食べながらお父さんのことを話しているとき、お母さんは、お父さんがいない方が食事の用意が楽でいい、なんて言っていました。(3課)

日本に来る前は、日本人は親切で礼儀正しいと聞いていましたが、本当にそうなのでしょうか。(4課)

5. 繰り返すことを表す言い方 (5)

これは、娘の通っている学校の学生名簿を店の人が持っているということを意味する。(11課)

毎日見ている富士山周りの家も人も、宇宙から見たら一つのちっぽけな球なのだ。

(11課)

6. 結果の状態を表す言い方 (4)

『パチンコ道』という本が売れているそうです。(6課)

「もうそろそろニュースの時間だろう」と見当を付けると、それが大きくは間違っていない。(13課)

7. 丁寧なことにおける動作・状態の継続を表す言い方 (2)

しばらくごぶさたしておりますが、皆様、お元気でしょうか。(2課)

お待ちしております。(2課)

動詞「て」形+補助動詞「いる」	五段動詞	一段動詞	不規則動詞	他動詞	自動詞	意志動詞	無意志動詞	継続動詞	瞬間動詞
持つ + いる	-			-		-			-
勤める + いる		-		-		-		-	
話す + いる		-		-		-		-	
見る + いる		-		-		-		-	
育てられる+いる		-			-		-		-
書かれる+いる		-			-		-		-
言う+いる	-			-		-		-	
聞く+いる	-			-		-		-	

通う＋いる	-			-			-	-	
売れる＋いる		-			-		-		-
間違う＋いる	-			-			-		-
沙汰する ＋ いる			-	-		-		-	
待ちする ＋ いる			-	-		-		-	

「いる」文の構造は、

1. 継続動詞としては（present participle）／進行中の働きを持ち主動詞を補助する。
2. 省略して補助動詞「いる」も見つける、見ている_見てる、生きている_生きてる。意味に影響を与えない。
3. 補助動詞「いる」は主動詞に弱い影響を与える。「いる」は補助動詞として、主動詞から外すと、文の意味は少し変わる傾向である。例：高い辞書を持っていても、全然使わずに本棚に並べておくだけの人に、「猫に小判だね」と言うのです。 _高い辞書を持っても、全然使わずに本棚に並べておくだけの人に、「猫に小判だね」と言うのです。

2. ～ておく

「ておく」の4つの例文がある。補助動詞「おく」の意味は、

1. ある行為を行い、持続させることである。（あることを行うとき、他のこともやめていない）。
2. 準備するの動作を表す。

「おく」文の構造は、

1. 自動詞、瞬間動詞はないので、自動詞と瞬間動詞も補助動詞「おく」と結合できないと思う。
2. 名詞化する動詞（英語で gerund）、動名詞として動詞に接辞が付き、動詞の性質を保ちつつ名詞とおなじような働きをする語。機能は主動詞を補助する。
3. 補助動詞「おく」は主動詞に強い影響を与える。補助動詞として、主動詞から外すと、文の意味は変わる傾向である。例：高い辞書を持っていても、全然使わずに本棚に並べておくだけの人に、「猫に小判だね」と言うのです。 _高い辞書を持っていても、全然使わずに本棚に並べるだけの人に、「猫に小判だね」と言うのです。

3. ～てしまう

28の補助動詞「しまう」の例文がある。補助動詞「しまう」の意味は：

1. 残念なことを表す言い方（7）
2. 過去における動作・状態の残念なことを表す言い方（7）

3. 完了を表す言い方 (10)
4. 過去における完了を表す言い方 (4)

「しまう」文の構造は、

1. 名詞化する動詞（英語で *gerund*）、動名詞として動詞に接辞が付き、動詞の性質を保ちつつ名詞とおなじような働きをする語。機能は主動詞を補助する。
2. 補助動詞「しまう」は主動詞に強い影響を与える。補助動詞として、主動詞から外すと、文の意味は変わる傾向である。残念なことの意味は完了の意味と違いニュアンスがある。例：猫にも額の広い猫と狭い猫がいると思うので、日本語の分かる猫に聞かれたら、「失礼じゃないですか」と怒られてしまいそうです。 _猫にも額の広い猫と狭い猫がいると思うので、日本語の分かる猫に聞かれたら、「失礼じゃないですか」と怒られそうです。

4. ～ていく

13の補助動詞「いく」の例文がある。補助動詞「いく」の意味は、

1. 継続状態を表す言い方 (8)
2. 移動で、遠ざか移動 (3)
3. 変化する状態を表す言い方 (1)
4. 消失を表す言い方 (1)

「いく」文の構造は、

1. 名詞化する動詞（英語で *gerund*）、動名詞として動詞に接辞が付き、動詞の性質を保ちつつ名詞と同じような働きをする語。機能は主動詞を補助する。
2. 補助動詞は全部平仮名で書く、『いく』も平仮名で書くことであるが、漢字で書く『行く』と書く場合は見つける。持って行き、運んで行って。そんな「行く」は補助動詞「いく」の意味の向かうこと、移動する意味を持つてる。
3. 補助動詞「いく」は主動詞に強い影響を与える。補助動詞として、主動詞からは外すと、文の意味は変わる傾向である。例：主人を亡くしてから、私は外出するときもパートに出るときも時計を持っていかないことにした。 _ 主人を亡くしてから、私は外出するときもパートに出るときも時計を持ってないことにした。

5. ～てくる

44の補助動詞「くる」の例文がある。補助動詞「くる」の意味は、

1. 継続状態を表す言い方 (33)
2. 近づく移動を表すこと (5)
3. 戻ること (6)

「くる」文の構造は、

1. 名詞化する動詞（英語で *gerund*）、動名詞として動詞に接辞が付き、動詞の性質を保ちつつ名詞とおなじような働きをする語。機能は主動詞を補助する。
2. 補助動詞「くる」は主動詞に大きい影響を与える。補助動詞として、主動詞から外すと、文の意味は変わる傾向である。例：でもお父さん、僕には新しいパソコンゲームを買ってきてね。 _でもお父さん、僕には新しいパソコンゲームを買ってね／買うね。

6. ～てみる

18 の補助動詞「みる」の例文がある。補助動詞「みる」の意味はどんなものか、どんなことか、どんなところかといったことを知るために、実際に行為をを試すこと。

「みる」文の構造は、

1. 名詞化する動詞（英語で *gerund*）、動名詞として動詞に接辞が付き、動詞の性質を保ちつつ名詞と同じような働きをする語。機能は主動詞を補助する。
2. 補助動詞「みる」は主動詞に強い影響を与える。補助動詞として、主動詞から外すと、文の意味は変わる傾向である。例：しかし、よく考えてみると、この考え方はちょっとまじめすぎるのではないかと思います。 _しかし、よく考えると、この考え方はちょっとまじめすぎるのではないかと思います。

7. ～てやる

2つの補助動詞「やる」の例文がある。補助動詞「やる」の意味は好意をやること。他人のために話し手の側の人がある行為をすることを表す。

「やる」文の構造は、

1. 無意志動詞と瞬間動詞はあまりできないと思う。
2. 名詞化する動詞（英語で *gerund*）、動名詞として動詞に接辞が付き、動詞の性質を保ちつつ名詞とおなじような働きをする語。機能は主動詞を補助する。
3. 補助動詞「やる」は好意を受ける人はあげる人よりの地位が低い。
4. 補助動詞「あげる」は主動詞に大きい影響を与える。補助動詞として、主動詞から外すと、文の意味は変わる傾向である。例：お父さんとの約束だから、眠くてもがんばってやっています。 _お父さんとの約束だから、眠くてもがんばります。

8. ～てあげる

一つの補助動詞「あげる」の例文がある。補助動詞「あげる」の意味は好意をあげ

ること。(他の人のために話し手(または話し手の側の人)が何かの行為をすることを表す)

「あげる」文の構造は、

1. 名詞化する動詞(英語で *gerund*)、動名詞として動詞に接辞が付き、動詞の性質を保ちつつ名詞と同じような働きをする語。機能は主動詞を補助する。
2. 「あげる」は好意を受ける人はあげる人と地位が同じ。
3. 補助動詞「あげる」は主動詞に強い影響を与える。補助動詞として、主動詞から外すと、文の意味は変わる傾向である。例：けれども、私には「乗せてあげるから券を買ってきなさい」命令されているような感じがする。 _ けれども、私には「乗せてあげるから券を買ってきなさい」命令されているような感じがする。

9. ～てくれる

24 の補助動詞「くれる」の例文がある。補助動詞「くれる」の意味は好意・動作をもらう。話し手、あるいは話し手側の人のために誰かが何かの行為をするよう強く命令する表現。受益(20)、結果(1)、依頼(3)。

「くれる」文の構造は、

1. 無意志動詞はできないと思う。
2. 名詞化する動詞(英語で *gerund*)、動名詞として動詞に接辞が付き、動詞の性質を保ちつつ名詞と同じような働きをする語。機能は主動詞を補助する。
3. 「くれる」は好意を受ける人はあげる人と地位が同じぐらい。
4. 補助動詞「くれる」は主動詞に強い影響を与える。補助動詞として、主動詞から外すと、文の意味は変わる傾向である。例：たとえ猫が手伝ってくれてもそれほど役に立つとは思えませんが、何か口に出して言いたいと思って、こう言うのです。 _ たとえ猫が手伝ってもそれほど役に立つとは思えませんが、何か口に出して言いたいと思って、こう言うのです。

10. ～てくださる

2つの補助動詞「くださる」の形がある。補助動詞「くださる」の意味は話し手、あるいは話し手側の人のために誰かが何か行為をするということを、行為するひとを主語にして述べて表現。

「くださる」文の構造は、

1. 無意志動詞はできないと思う。

2. 名詞化する動詞（英語で *gerund*）、動名詞として動詞に接辞が付き、動詞の性質を保ちつつ名詞とおなじような働きをする語。機能は主動詞を補助する。
3. 「くださる」は好意をあげる人の地位が高い
4. 補助動詞「くださる」は主動詞強い影響を与える。補助動詞として、主動詞からは外すと、文の意味は変わる傾向である。例：結婚式には、たくさんいい思い出を作ってくださった小村先生も来てくださるそうで、とても喜んでます。 _ 結婚式には、たくさんいい思い出を作った小村先生も来るそうで、とても喜んでます。

11. ～てもらう

6つの補助動詞「もらう」の例文がある。補助動詞「もらう」の意味は好意、動作をもらう。話し手（または話し手の側の人）のために誰かが何かの行為をするということを、話し手の側から述べる表現。

「もらう」文の構造は、

1. 無意志動詞はあまり使わない。
2. 名詞化する動詞（英語で *gerund*）、動名詞として動詞に接辞が付き、動詞の性質を保ちつつ名詞と同じような働きをする語。機能は主動詞を補助する。
3. 「もらう」は好意をあげる人は受ける人との地位が低いまたは同じ。
4. 補助動詞「もらう」は主動詞に強い影響を与え、補助動詞として、主動詞から外すと、文の意味は変わる傾向である。例：学校では、漢字や文法、言葉の意味などは教えてもらうが、言葉の使い方や伝わり方は教えてくれない。 _ 学校では、漢字や文法、言葉の意味などは教えるが、言葉の使い方や伝わり方は教えてくれない。

12. ～ていただく

3つの補助動詞「くださる」の例文がある。補助動詞「いただく」の意味は好意、動作をもらう。話し手（または話し手の側の人）のために誰かが何かの行為をするということを、話し手の側から述べる表現。

「いただく」文の構造は、

1. 無意志動詞はあまり使わない。
2. 名詞化する動詞（英語で *gerund*）、動名詞として動詞に接辞が付き、動詞の性質を保ちつつ名詞と同じような働きをする語。機能は主動詞を補助する。
3. 「いただく」は好意をあげる人は受ける人との地位が高い。
4. 補助動詞「いただく」は主動詞に強い影響を与える。補助動詞として、主動詞か

ら外すと、文の意味は変わる傾向である。例：私たちが新しい生活を始める記念の日に、皆様にも是非来ていただいて、御一緒に楽しくお話したいと思えます。_私たちが新しい生活を始める記念の日に、皆様にも是非来て、御一緒に楽しくお話したいと思えます。

13. ～てください

1 3つの補助動詞「ください」の例文がある。補助動詞「くださる」の意味は話し手（または話し手側の人のために誰かが何かの行為するように依頼したり、指示したり、行為をする依頼したり、命令したりする表現。

「ください」文の構造は、

1. 無意志動詞はあまり使わない。なるはならないに変わって、意志的を持つ。
2. 名詞化する動詞（英語で *gerund*）、動名詞として動詞に接辞が付き、動詞の性質を保ちつつ名詞と同じような働きをする語。機能は主動詞を補助する。
3. 補助動詞「ください」は主動詞に大きい影響を与える。しかし、文に頼むことを強調しても、補助動詞として、主動詞から外すと、文の意味は少し変わる傾向である。短縮句としている。～てください_～て、意味が同じ。例：特急券をお持ちでない方はお乗りにならないでください」と何度も繰り返されるアナウンスである。_特急券をお持ちでない方はお乗りにならないで」と何度も繰り返されるアナウンスである。

その外に、筆者は『中級から学ぶ日本語』に特別な補助動詞も見つける。

- 補助動詞を重ねるパターンもある。文に2つ補助動詞が重なって存在する。

(8)

例：お父さんとの約束だから、眠くてもがんばってやっています。(3課)

その文に、2つの補助動詞の意味を持っている。例えば：補助動詞「やる」と「いる」結合する。補助動詞「くる」と「いる」結合できる。おのおの補助動詞も結合できるが、基本的な補助動詞の意味と構造にする。

- 省略パターンも見つける。(7)

見ている_見てる、 生きている_生きてる。それから、「なさい」は「てください」形から省略パターンではないのに、「てください」のニュアンスも持っている例えば：やめてください_やめなさい、食べてください_食べなさい、買ってきてください_買ってきなさい、など。この省略パターンは例文の意味にあまり影響を与えない。話言葉では、短くて言いやすい形がよく使われている。「い」の音がなくなって「てる」に変わる。

- 『おり』は丁寧語意味として、補助動詞「いる」からできて、丁寧なことにおける

動作・状態の継続を表す。(3)

しばらくごぶさたしておりますが、皆様、お元気でしょうか。(2課)

お待ちしております。(2課)

自転車で通える職場など今ではまれだが、当時市役所に勤めていた父は、自転車で十五分ばかりの所に市の住宅を与えられており、毎日まるで時計でも計ったように五時半には必ず家へ帰ってきた。(19課)

- 補助動詞は全部平仮名で書く、補助動詞「いく」も平仮名で書くことであるが、漢字で書く『行く』と書く場合も見つける。(2) 例：持って行き、運んで行って。そんな「行く」は補助動詞「いく」の意味の向かうこと、移動する意味を持つ。

結論

『中級から学ぶ日本語』における 336 の補助動詞を含んだ例文から、13 補助動詞の文型を分類することができた。補助動詞は「て形」と結合して、新しい意味を持ち、本来の意味を失う。補助動詞は補助の動詞と主動詞に分けられる。『中級から学ぶ日本語』には 13 補助動詞の形がある。すなわち、「いる」「おく」「しまう」「いく」「くる」「みる」「やる」「あげる」「くれる」「くださる」「もらう」「いただく」「ください」である。その 13 補助動詞はそれぞれ構造と意味が違う。「いる」の補助動詞は継続動詞としては英語で **present participle** と言う。進行中の働きを持ち主動詞を補助する。残りの 12 補助動詞は動詞から名詞になって、名詞化する動詞（英語で **gerund**）、動名詞として動詞に接辞が付き、動詞の性質を保ちつつ名詞とおなじような働きをする語となる。機能は主動詞を補助する。その主動詞からいろいろな補助動詞ができる。補助動詞を活用からみると、三つに分けられ、五段、一段、不規則動詞となる。それらの補助動詞は、他動詞、自動詞、意志動詞、無意志動詞、継続動詞、と瞬間動詞に下接して意味を加える。下の表に説明する。

補助動詞	構造	主動詞の意味	前接動詞	意味と用法
いる	継続動詞 present participle / 進行中の働きを持ち主動詞を補助する	補助動詞「いる」は主動詞に弱い影響を与える。「いる」は補助動詞として、主動詞からは外すと、文の意味は少し変わ	他動詞 自動詞 意志動詞 無意志動詞 継続動詞 瞬間動詞	1. 継続状態を表す言い方 2. 動作の進行を表す言い方 3. 受身の表現 4. 過去における動作・状態の継続を表す言い方 5. 繰り返すことを表す言い

		る傾向である。		方 6. 結果の状態を表す言い方 7. 丁寧なことにおける動作・状態の継続を表す言い方
おく	動詞_名詞、動名詞として動詞。名詞化する動詞 (英語で gerund)	変わる	他動詞 意志動詞 無意志動詞 継続動詞	1. ある行為を行い、持続させることである。(あることを行うとき、他のこともやめていない) 2. 準備するの動作を表す
しまう	動詞_名詞、動名詞として動詞。名詞化する動詞 (英語で gerund)	変わる	他動詞 自動詞 意志動詞 無意志動詞 継続動詞 瞬間動詞	1. 残念なことを表す言い方 2. 過去における動作・状態の残念なことを表す言い方 3. 完了を表す言い方 4. 過去における完了を表す言い方
いく	動詞_名詞、動名詞として動詞。名詞化する動詞 (英語で gerund)	変わる	他動詞 自動詞 意志動詞 無意志動詞 継続動詞 瞬間動詞	1. 継続状態を表す言い方 2. 移動で、遠ざか移動 3. 変化する状態を表す言い方 4. 消失を表す言い方
く	動詞_名詞、動名詞として動詞。名詞化する動詞 (英語で gerund)	変わる	他動詞 自動詞 意志動詞 無意志動詞 継続動詞 瞬間動詞	1. 継続状態を表す言い方 2. 近づく移動を表すこと 3. 戻ること
みる	動詞_名詞、動名詞として動詞。名詞化する動詞 (英語で gerund)	変わる	他動詞 自動詞 意志動詞 無意志動詞 継続動詞 瞬間動詞	どんなものか、どんなことか、どんなところかといったことを知るために、実際に行方を試すこと。

やる	動詞_名詞、動名詞として動詞。名詞化する動詞 (英語で gerund)	変わる	他動詞 自動詞 意志動詞 継続動詞	好意をやること。他人のために、話し手の側の人がある行為を表す
あげる	動詞_名詞、動名詞として動詞。名詞化する動詞 (英語で gerund)	変わる	他動詞 自動詞 意志動詞 継続動詞 瞬間動詞	好意をあげること。(他の人のために話し手(または話し手の側の人)がある行為を表す)
くれる	動詞_名詞、動名詞として動詞。名詞化する動詞 (英語で gerund)	変わる	他動詞 自動詞 意志動詞 継続動詞 瞬間動詞	好意・動作をもらう。話し手、あるいは話し手側の人のために誰かが何かの行為をするよう強く命令する表現 1. 受益 2. 結果 3. 依頼
くださる	動詞_名詞、動名詞として動詞。名詞化する動詞 (英語で gerund)	変わる	他動詞 自動詞 意志動詞 無意志動詞 継続動詞 瞬間動詞	話し手、あるいは話し手側の人のために誰かが何か行為をするということを、行為するひとを主語にして述べて表現
もらう	動詞_名詞、動名詞として動詞。名詞化する動詞 (英語で gerund)	変わる	他動詞 自動詞 意志動詞 継続動詞 瞬間動詞	好意、動作をもらう。話し手(または話し手の側の人)のために誰かが何かの行為をするということを、話し手の側から述べる表現
いただく	動詞_名詞、動名詞として動詞。名詞化する動詞 (英語で gerund)	変わる	他動詞 自動詞 意志動詞 継続動詞 瞬間動詞	好意、動作をもらう。話し手(または話し手の側の人)のために誰かが何かの行為をするということを、話し手の側から述べる表現

ください	動詞_名詞、動名詞として動詞。名詞化する動詞 (英語で gerund)	主動詞に大きい影響を与える。しかし、文に頼むことを強調しても、「ください」は補助動詞として、主動詞からは外すと、文の意味は少し変わる傾向である。短縮句としている。	他動詞 自動詞 意志動詞 継続動詞 瞬間動詞	話して(または話し手側の人のために誰かが何かの行為するように依頼したり、指示したり、行為をする依頼したり、命令したりする表現
------	----------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------	----------------------------------------------------------------

上のことをグラフに示すと以下ようになる。

<p style="text-align: center;">補助動詞の意味</p> <p style="text-align: center;">補助動詞</p> <p>「いる」と「ください」は補助動詞が外れると主動詞の意味が変化するものである。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. いる 2. おく 3. しまう 4. いく 5. くる 6. みる 7. やる 8. あげる 9. くれる 10. くださる 11. もらう 12. いただく 13. ください
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

その他、下のグラフにあるように、『中級から学ぶ日本語』に 336 補助動詞のうち、特別な補助動詞も見つけた。日本語の補助動詞は多様である。

<p style="text-align: center;">『中級から学ぶ日本語』にある補助動詞</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. て形を取る補助動詞 318 2. 重ねている補助動詞 8 3. 省略補助動詞 7 4. 補助動詞「おり」 3 5. 補助動詞「行く」 2
-------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学習者は中級レベルになって補助動詞の構造、意味を練習して、その複雑な補助動詞の意味を理解する。インドネシア語に翻訳すると、対応する品詞がなく、なかなかはっきりと意味が分からない場合もある。だが、日本語の補助動詞の理論的な説明を理解すれば、文の意味は、すぐ分かるだろう。

それから、詳しい補助動詞の説明は、砂川有里子の本の中（教師と学習者のための日本語文型辞典）でも、別々の所に書かれています。外国人学習者は補助動詞について学ぶ時、詳しい補助動詞の説明を理解するのは、なかなか大変なことである。

私は、外国人の日本語学習者として、日本語の文法を理解するために、品詞分類を学ばなければならないと思う。多くの品詞の中で、補助動詞は動詞からの発生で品詞的にははっきりと位置づけられない。日本語文法を理解する上で重要な品詞だと考えられる。

参考文献

- 三上章（1963） 『日本語の構文』（くろしお出版、東京）
松村明（1971） 『日本文法大辞典』（明治書院）
日本語教育学会編（1982） 『日本語教育事典』（大修館書店、東京）
仁田義雄（1989） 『現代日本語文のもダリティの体系と構造』（くろしお出版、東京）
吉川武時（1989） 『日本語文法入門』（アルク、東京）
小泉保（1989） 『日本語基本動詞用法辞典』（大修館書店、東京）
金田一春彦（1989） 『日本語大辞典』（講談社）
益岡隆志、田窪行則共著（1989） 『基礎日本語文法』（くろしお出版、東京）
杉本つとむ、岩淵匡編著（1990） 『日本語学辞典』（桜楓社、東京）
日本語教育学会（1990） 『日本語教育ハンドブック』（大修館書店 東京）
田中稔子（1990） 『田中稔子の日本語の文法教師の疑問に答えます』（近代文芸社、東京）
富田隆行（1991） 『日本語教育のための文法の基礎知識とその教え方』（凡人社、東京）
容子富阪（1997） 『なめらか日本語会話』（アルク、東京）
砂川 有里子（1998） 『教師と学習者のための日本語文型辞典』（くろしお出版、東京）
森田良行（2002） 『日本語文法の発想』（ひつじ書房）
荒井礼子、松田浩志（2003） 『中級から学ぶ日本語』（改訂版、東京）